

2019年(令和元年)

6月号 (No. 889)

公益社団法人

日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に
含まれていますURL <http://www.jac.or.jp>
e-mail jac-room@jac.or.jp

目 次

皇太子時代の天皇陛下の登山2題	1
北八ツ・天狗岳と南ア・甲斐駒ヶ岳	1
20年ぶりに実現した殿下の天狗岳登山	1
皇太子時代の甲斐駒ヶ岳登山	2
第35回全国支部懇談会を奥日光で開催	4
東海支部登山学校、第Ⅲ期開校へ	6
さんけん通信	7
子どもたちが多摩川河口から雲取山に挑戦	8
信仰の道「浅間山古道」が復活	10
追悼 中世古直子さんを偲ぶ	11
活動報告／山行委員会	13
新入会員	14
図書受入報告	14
図書紹介	15
会務報告	17
ルーム日誌	18
会員異動	18
INFORMATION	19
編集後記	19

皇太子時代の天皇陛下の登山2題 北八ツ・天狗岳と南ア・甲斐駒ヶ岳

令和元年、新天皇陛下がご即位されたが、陛下の山好きはつとに知られているところで、本会会員であるとともに、恒例の年次晩餐会にもしばしばご臨席されている。このたびのご即位にあたり、皇太子時代の殿下の2つの山行、天狗岳と甲斐駒ヶ岳における出会いを、本会会員ふたりに綴ってもらつた。

20年ぶりに実現した殿下の天狗岳登山

米川正利

2019年5月1日、新しい元号、令和元年となり、新天皇陛下

がご即位された。陛下は幼少のころより全国の山々を登られ、八ヶ岳も何山か登られている。権現岳、赤岳、横岳、硫黄岳などである。

2017年9月20日と21日の2

日間で、天狗岳(2646m)に登られた。天狗岳は八ヶ岳連峰のほ

ぼ中央に位置し、東天狗岳と西天狗岳が双耳峰を成している。

天狗岳登山については、殿下から今までに何度も何度か登山ガイドの私と黒百合ヒュッテに宿泊の予約があつたが、天気が悪かつたり、急な公務があつたりして中止になり、今回、20年ぶりに実現した。

最初の予約は1993年、雅子

妃殿下と結婚されたころで、初冬の山を、新雪を踏んで歩く企画だった。その後も紅余曲折があつたが、2013年12月、日本山岳会の年次晩餐会に殿下がご臨席されたおり、そのお帰りのとき会場で私を見付けられ、「今度こそ天狗岳に登りに行きます」とお声掛けくださいました。

9月20日は風が強かつたが天気も良く、奥蓼科・渋御殿湯で殿下をお出迎えした。お会いするまでは私も大変緊張していたが、お会いして殿下から「何度か予約をし

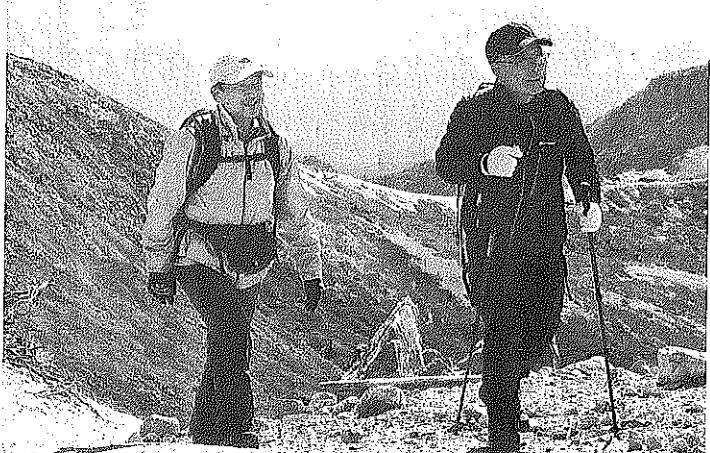
て撮っていた。途中で登山者とすれ違うと、「どこからですか」とか、「八ヶ岳の登山はいかがですか」などと気さくに話し掛けられる。話し掛けられた登山者が、殿下と知つて戸惑つていた。

2回ほど休憩を取り、登山口から2時間ほどで山小屋に到着した。いつも御所内でマラソンをされるとかで、その健脚ぶりには驚かされた。休憩後、小屋周辺を散策する。中山峠展望台まで行き、明

るながら実現しなくてすみません。今日はよろしく」と笑顔で話し掛けられ、一気に緊張が解けた。

ケ岳の森林の形態——モミやオオシラビソ、シラビソ、コメツガ、ト

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時



筆者(右)の案内で西天狗岳に向かう殿下(2017年9月22日付、信濃毎日新聞より)

殿下が大好きな信州の蜂の子、小鮒の甘露煮など私の手作りのつまみで飲み始める。今までに登られた殿下的山の話になり、私も登ったことのある近畿地方の歴史の古い山、大峰山が話題になる。特に山上ヶ岳から八経ヶ岳への縦走の話で盛り上がる。また、山小屋の屎尿処理問題の話なども出て、殿下がお得意な山の水の問題について、いろいろな話を聞きできた。

その後、小屋の従業員や長野県警察山岳遭難救助隊の面々も加わって宴会になつたが、明日の登山を考え、早めに切り上げた。

翌朝、5時に殿下とふたりで朝食をとり、準備体操を済ませ、記念写真を撮つて天狗岳へ。

天気は快晴無風で、絶好の登山日和になつた。北や南アルプス、御嶽山、乗鞍岳と360度全山を眺望することができた。山の斜面は、

日の天狗岳の偵察もした。

夕食は殿下と私のふたりでいたいた。殿下のご希望で、いつも登山者に出している食事と同じ物を、とのことだった。ハンバーグとご飯、我が家で作つた無農薬の野菜サラダ、手作り味噌の汁などをお出しだす。

その後、お休みして懇親会に移る。初めは殿下と私、息子、家内、私の姉の5人という顔ぶれだつた。

員や長野県警察山岳遭難救助隊の面々も加わって宴会になつたが、明日の登山を考え、早めに切り上げた。

その後、小屋の従業員や長野県警察山岳遭難救助隊の面々も加わって宴会になつたが、明日の登山を考え、早めに切り上げた。

その後、小屋の従業員や長野県警察山岳遭難救助隊の面々も加わって宴会になつたが、明日の登山を考え、早めに切り上げた。

新天皇陛下は皇太子時代の1990(平成2)年7月18日から19日、南アルプスの甲斐駒ヶ岳を訪ねられた。筆者は当時、明治大学4年生。就職活動の合間に見ながらアルバイトをしていた黒戸尾根の七丈小屋で殿下をお迎えした。ご即位の日、手元に残る記念写真と恩

皇太子時代の甲斐駒ヶ岳登山

(信濃支部会員、八ヶ岳山岳ガイド協会名誉会長)

尾野益大

賜の煙草を眺め、29年前を懐かしながら。

殿下は梅雨明け宣言が出た18日朝、ご学友や侍従、警察、報道陣らと尾白川渓谷駐車場を出発。宿泊地の七丈小屋ではオーナー矢葺敬造さんや早野正美さん、宮下隆英さん、筆者が心待ちにしていた。

殿下が大好きな信州の蜂の子、小鮒の甘露煮など私の手作りのつまみで飲み始める。今までに登られた殿下的山の話になり、私も登ったことのある近畿地方の歴史の古い山、大峰山が話題になる。特に山上ヶ岳から八経ヶ岳への縦走の話で盛り上がる。また、山小屋の屎尿処理問題の話なども出て、殿下がお得意な山の水の問題について、いろいろな話を聞きできた。

その後、小屋の従業員や長野県警察山岳遭難救助隊の面々も加わって宴会になつたが、明日の登山を考え、早めに切り上げた。

東天狗岳から西天狗岳へ向かう。

ナナカマトやダケカンバが赤や黄色に色づき始め、山の花もアキノキリンソウやトウヤクリンドウ、ウメバチソウなどが咲きそろつていた。東天狗岳頂上までは1時間ほどで到着した。記念写真を撮り、四圍の山の説明をする。殿下は、今までに登られた山を懐かしそうに確認させていた。眼の前にそびえる甲斐駒ヶ岳の長大な黒戸尾根と南アルプスの連山、加賀の白山、甲武信ヶ岳、両神山など、登られた山が遠くまで見ることができた。最後に「北八ヶ岳の双子山は見えますか」と尋ねられるので、そちらの方向をお知らせると、「愛子が林間学校で登つた山です」と微笑んでおられた。

小屋で休憩後、渋御殿湯へ。殿下とお別れのとき、「また来てください。今度、冬山はいかがですか」とお尋ねすると「これからは無理でしようね」とお答えがあつた。実際にご案内してみて、大自然を愛する天皇陛下が、いつまでも私たち国民の身近な人であつてほしいと切に思つた。

山頂では大勢の記者たちが待ち構えていた。記者たちの撮影や質問も終わり、再び東天狗岳経由で中山峠から山小屋へ。途中で殿下とは、世界の水の話や、山登りをして大自然と触れ合う大切さ、地球温暖化で高山植物が退化していることなどを話しながら歩く。

午後の到着時刻が近付くと、まことに重いカメラを抱えるマスコミの一団がやつて来た。お盆や紅葉シーズンを除いては静かな一帯が、まるで「銀座」のような喧騒に包まれた。

やがて殿下が到着。整列して出迎えた。甲斐駒に登るだけならばかの登路もあるが、開山以来の古道をたどろうと、急勾配でスリル満点の黒戸尾根を一気に約160m登ってきたわけだ。「体力・精神力があり、山が本心からお好きなんだ」と思った。

矢葺さんが歓迎の挨拶をして、小屋と周囲の風景を説明。陛下はザックを背負つたまま聞き入り、周りに視線を送られていた。

夕食は何を作ったか、はつきり思い出せない。矢葺さんに電話で確かめると「肉じゃが、アワビ、マグロの刺身などではなかつたか」に連んだ。2階の一部のスペースは畳の上に畳をもう一枚重ね、カーテンを備え付けていた。

小屋の少し奥の旧第2小屋に泊

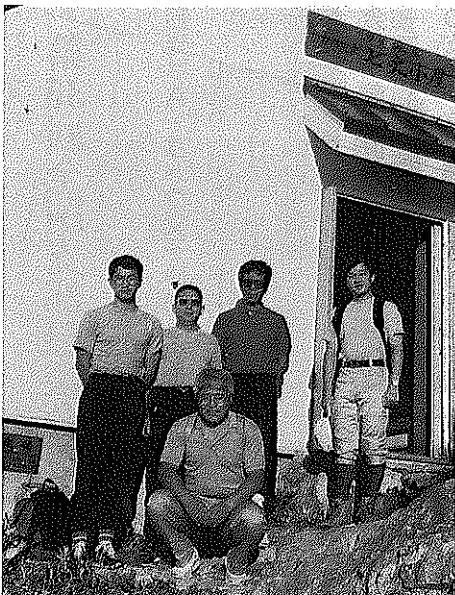
まるマスコミ関係者らの食事と就寝準備もこなし、緊張感と責任感を覚える、充実した一日だった。

矢葺さんはその夜、ヘリポートで殿下と地酒を酌み交わし、山の話で盛り上がつたという。「陛下は勧められれば笑顔で応じ、相手への配慮と気配りがあった」そうだ。当時、約1ヶ月前から準備を始めて盛り上がつたといふ。

出発前には快く記念撮影にも応じてくださつた。

一行を見送り、片付けをして後を追い掛けた。頂上の向こう側の仙水小屋へ。到着した部屋ではクラシックが流れ、陛下と矢葺さんが話をされていた。小屋の水は、横水問題の研究者でもある殿下らしき「この水はおいしい」と喜ばれ、水筒に詰められていた。

天皇陛下は日本の顔。甲斐駒の



出発前に七丈小屋前で殿下と撮った記念写真。
左端が筆者

山道整備、食料の調達を体験したり見聞したりして、皇族登山の舞台裏を知つた気がした。「開かれた皇室」と言われるな

か、殿下ご自身新設、登山道整備、食料の調達を体験したり見聞したりして、皇族登山の舞台裏を知つた気がした。「開かれた皇室」と言われるな

か、殿下ご自身は魅力ある山」。

今年2月に刊行された新潮文庫「新天皇若き日の肖像」(根岸豊明著)を見ても、陛下は白旗史朗さんとの対談で「私は甲斐駒ヶ岳が好きなんですよ。形が勇壮な感じがしますね」と語られていて、嬉しかつた。

同書では「何故、山が好きなのですか」との問い合わせに「登つている最中は邪念がなく景色や植物に没頭できる」と答えていている。陛下が考える山の魅力とは、多くの登山者も共感できる「無心になれる」とだと理解できた。

皇室の制度や祭祀に詳しい京都産業大学名誉教授の所功さんには仕事で会つた同じ2月。「学生時代、お会いしました」と体験談を話すと、「帝王学を学んだ陛下は日ごろ、心身を鍛えています」と教えられ納得できた。

天皇陛下は日本の顔。甲斐駒のようすに凛とした姿に見えてくる。山で無心になれる機会はもうないかもしれないが、ときには雄大な山の世界に想いを馳せていただきたい、と願つてゐる。

(四国支部長)